



宮の里・鷺坂公園 (撮影 小林会員)

令和4年9月号 Vol. 221
(2022年)

発行：令和4年9月10日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘

《夏季観光客入込み調査》

行事区分：行事支援

日 時：8月14日(日) 9:00~16:00

場 所：厚木市内5拠点

参加者：10名

広沢寺温泉(七沢観光協会駐車場)

“台風一過の晴天”ではなく、降雨が当日朝までずれ込み、鐘ヶ嶽、大山も全く見えません。8時いつもなら、朝早いハイカー、山登りの人達の車があるのですが、今朝はゼロ！お盆最後の日曜、午後は天気が回復する予報なので、皆さんスタートは遅いでしょう。今日のキーワードはお盆、日曜、近隣の人、ファミリー、三世代、猛暑、近場、川遊び、ヤマビルだと思いました。



9時半でも3台しかいません。それも、川魚料理・釣り堀「ますや」さんの開店待ちの人達です。時間つぶしの人達には、アンケートとパンフレットによる観光案内絶好の機会でした。ファミリーにあゆコロちゃんの人気は絶大です！しかし、本来のハイキング客が見当たらないのは寂しいかぎりです。埼玉からの夫婦一組の鐘ヶ嶽行きと、不動尻まで散歩の地元のおひとり、滑岩(なめりいわ)行き2人ぐらいです。その後、昼にかけてひっきりなしに車が入ってきましたが、ほぼ「ますや」さん行きです。予想通りの展開でした。一方、ヤマビル君の知名度はうなぎ昇りで、対策説明会です。実際、初めてお目にかかった人は、騒いでいました。今日は厚木市民が多かったので観光協会主催の森林セラピーとノルディックウォーキング案内の宣伝に力を入れ暑い日は終了しました。大山からの下山者も見当たらず、真夏の低山ハイクは皆さん遠慮のようでした！ (石川記)

七沢温泉(盛楽苑駐車場)

夜半に台風が通過したので、朝から快晴だろうと思っていました。朝起きると雨が降っており、常識が外れて少し驚きました。小雨が降り続き中止かな？と考えがよぎり、会長

から連絡が来ているかも知れないとパソコンを開くと「本日 入込観光客調査実施します」の文字が目飛び込んできました。家を出る時もまだポツポツと降っており傘を用意して出発しました。現地に着いて準備を始める頃には降り止み、炎天下より曇りが良いと思いました。開始直後に日向薬師までハイキングに行く方にアンケートを書いて頂きました。驚いたことに調査中にハイキングの装いをして通過したのはこの方1人でした！

ここは温泉旅館に行かれる方が車で通過することが多く、歩く方は少なく、厚木市の主なハイキングコースからも外れていますが、それでも1人と言うのは初めての経験でした。昼近くなると真夏の太陽がジリジリと照り始めパラソルを何度も移動させて日光を遮りましたが日焼けは防げませんでした。



そんな時、盛楽苑のお隣の奥さんから冷たい氷を入れた珍しいスモモジュースの差し入れがあり美味しく頂きました。この方は観ボラの企画ガイドのハイキングに参加する常連の方です。観ボラのハイキングが無いのでもっぱら1人でハイキングに出掛けたり、ハイキングコースの整備をボランティアで行っていると話されていました。コロナ禍が終息しハイ

キングガイドを復活させたいものです。日帰り温泉の場所を聞かれパンフレットを開いて説明して案内しました。帰り際に車を私達の前で止め窓を開けてお礼を言われました。車の往来はともかく徒歩で通過する方が少なく、区切りの1時間に1人の時もありました。朝方の雨が観光客の出足をくじいたと思われる。(寺田 記)

《2022年度8月入会の会員紹介》

8月1日に3名の方が入会されました。8月13日の定例会の席で入会に際して3名からご挨拶を頂きました。協会ニュース用に自己紹介文を投稿して頂きましたので掲載します。(編集担当)

藍澤 紀男 (あいざわ のりお)

正直、「あつぎ観光」とか「ガイド」がつくと、ボランティアとはいえちょっと腰が引けますし、年齢80歳に手が届かんとする者が、これから入会させていただいて皆さんから教わっても、ガイドができるまでになれるかどうか自信はありませんが、快く入会をご承諾いただき有り難く感謝しております。

趣味は山登りオンリー、それも登るだけ・歩くだけです。これとってガイドできるような知見は全くありませんが、入会後は、会員の皆様あるいは観光ガイドに参加される皆様とのお縁を大切に、いろいろな体験をさせていただきながら、楽しんでいければと思っています。短いお付き合いになるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

清田 邦男 (せいだ くにお)

私は、山歩き(街歩きも好きです)と文化財めぐりが大好きです。山を歩き始めたのは市のイベントで厚木市のハイキングコースのパンフレットをいただき、それを全部歩いてやろうと思ったのが始まりでした。文化財は子供のころから城や寺社が好きでした。市の文化財の一般公開があるとよく参加させていただきました。今年は5月に四国遍路に行き

88箇寺を回ってきました。以前は職場の仲間でハイキングに行っていました。4年前に定年を迎え、会も活動休止となり、最近は一人で歩いていました。そこに広報で、文化財の紹介、ハイキングのガイドを行うボランティアガイド募集を見て、ぜひ参加して会の皆さんと活動したいと思い応募しました。生まれ育った厚木でボランティア活動できることは素晴らしいことと感じています。よろしくお願いします。

鷺田 晋 (わしだ すすむ)

愛知県豊橋市出身。今までに住んだ場所は愛知県以外に、京都、東京、群馬、山梨、沖縄。4年前に神奈川に仕事の関係で移り現在愛川町中津に住んでいます。昨年4月より厚木市立七沢自然ふれあいセンターで働いています。厚木市の施設で働きながら厚木のことを全く知らなくて、厚木のことを学ぶために入会しました。

趣味はランニングで、知らない町を走りながら観光する旅ランをしています。また愛川町角田に約18坪の市民農園を借りて野菜を作っています。他にも登山やラグビー・サッカー観戦が好きです。昨年城郭検定2級を取得しました。まだフルタイムで仕事をしているので、参加できる機会は限られますが、先輩の方々の知識や経験をいろいろと吸収させていただきますので、よろしくお願いします。

ホームページの紹介



ホームページ新担当者の重富さんからホームページの歴史や、今後の情報発信・抱負について投稿を頂きました。また前任者で今のホームページをゼロから立ち上げた寺田さんから当時の苦労話の投稿を頂きましたので掲載いたします。会員の皆さんもホームページを是非活用してください。
(編集担当)

1、ホームページ立ち上げから現在にいたるまで

重富 聡子

平成16年(2004年)に **あつぎ観光ボランティアガイド協会** が発足、その4年後となる平成20年(2008年)には、厚木市マイタウンクラブの地域 SNS を通じて観ボラの活動内容を紹介することからスタートした外部向けの情報発信が、現在のホームページという形へ移行して365日24時間休まず観ボラをPRしてくれる頼りになるツールになってきています。

ホームページ立ち上げのきっかけは、平成23年(2011年)10月にあつぎ観ボラが実施団体を担うこととなった **かながわボランティアガイド協議会『合同研修会と交流会』** でした。協議会内では既にホームページを開設してPR活動を行っていた団体も多く、「合同研修会の実施団体という大役を引き受けるので、あつぎ観ボラでも広報関連で何か飛躍できるものがないだろうか…」と、当時会長の尾崎さんの意を汲んで、合同研修会開催1年前の平成22年(2010年)から、広報担当の寺田さんがホームページ開設にむけて動き出すことになりました。

立上げメンバーは寺田さん1名。ホームページ開設に至るまでの半年間、数々の苦勞を伴いながらも持ち前のバイタリティーで道なき道を切り開いた寺田さん。市のマルチボランティア主催のホームページ作成教室に通い「ホームページビルダー」の操作方法を学び、マルチボランティアスタッフの方々の協力を得ながら、活動内容ごとのページを1ページずつ丁寧に作成。そしてついに、平成23年(2011年)3月、観ボラのホームページが公開となりました。

それから11年の間ホームページを管理して下さった寺田さんから、この春にデータを受け継ぎ、広報担当の先輩方のアドバイスをいただきながら情報を更新し、現在のホームページに至っています。

予算をかけずに運用できるよう「ホームページビルダー」という言わば初心者向けの作成ソフトを使用し、データストレージ容量を抑えた「さくらインターネットのレンタルサーバー」を利用してホームページを公開しています。

WordPress という形式で作成するホームページと比べると、ページの更新作業に少し手がかかる点や、今風のおしゃれなデザインのページに仕上げる機能には欠けますが、外部の専門業者に依頼せずとも、デジタルネイティブ世代ではない私のような素人でも操作が可能ですので、観ボラメンバーの手でホームページを管理できるというメリットがあります。

立上げ当初からのホームページ背景や枠取り(フレーム)のデザインをそのまま残していますので、どこか懐かしいレトロ感のある雰囲気は漂っていますが、それがまたほのぼの(*^*)としていてあつぎ観ボラならではの…となっているように思います。

少し前に話題になりましたが、俳優の阿部寛さんのホームページも私たち観ボラと同じ「ホームページビルダー」で作成されていて、背景には「ABE Hiroshi」の文字が並び、左端には現在ではほとんど見なくなった「フレーム」でメニューが表示されています。そもそも、阿部寛さんのファンが作成した応援ページを所属事務がそのまま引き継ぎ管理運営しているそうで、当の本人 阿部寛さんは、このレトロ感漂うホームページがお気に入りとのこと。ご興味ある方は検索してみてください。

今後の課題のひとつには、企画ガイドの参加者募集の一部を、ホームページ上で発信・受付できるような仕組みを構築する案がありますが、観ボラ独自で完結できるようにするには、機能や運用面での制約があるためそう簡単に実現できないかもしれません。まずは、一人でも多くホームページ訪問者が増えるよう、ワクワク楽しいページに仕上げる工夫を凝らしつつ、タイムリーな情報発信を心掛けてまいりますので、引き続き会員皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。



ホームページトップページ

2、ホームページ立上げ時の思い出

寺田 敏

(1) 着手

ソフト「ホームページビルダー」を自費で購入（当時の観ボラは経費が少なく、先輩会員が、それぞれの担当分野で自費で活動しているのを見ていてボランティアだから当然だと思った）してパソコンに入れました。難解で困惑していたらタイミング良く、マルチボランティアさんの「ホームページ作成教室」が広報あつぎに掲載され応募しました。

初日に説明を聞きましたが、IT関係の専門用語が全く判らず、15分位経って手を挙げて「すみません。内容が全く理解できません。場違いな所に来ました。帰ります。」と言って席を立った。私は「プロバイダー」の意味も分かりませんでした。

その時マルチボランティアのメンバーでMさん（女性）（マイタウン・サポーターズクラブのメンバーで顔見知りでした。）が出口まで追っかけてきて「寺田さん私がレクチャーしてあげますから諦めないで」と言って、数日後自宅まで来て教えて頂きました。Mさんが自宅に来られたのはその日1日だけでしたが、自宅まで来てもらって諦めたのでは、みっともないし観ボラの恥になるなと思いました。

何度かホームページ作成教室に通う内、偶然、会長のTさん（マイタウン・サポーターズクラブのメンバーでした）が私の担当になり、作成初期のホームページを見て「どんな団体ですか？」と質問され、観ボラの活動内容を一通り説明し「完成したら厚木市観光協会が繋いでくれると言っています」と話しました。ホームページ作成教室は事前に予約しなければなりません。

それ以降、予約するといつもTさんが担当でした。最後まで専任担当の様でした。想像ですが、他の方のホームページは犬や猫等のペット、花や植物、子供、職場の話等、どちらかという自分の趣味をPRする内容が多く、観ボラのホームページは公共性が高く教え甲斐があり、更にサポーターズクラブの仲間だったのではないかと思います。



ホームページのきっかけとなったかながわボランティアガイド協議会『合同研修会と交流会』

(2) 完成・その後

半年後にホームページが完成するとTさんは「ページ構成が上手で初めて作成したとは思えない。素晴らしいホームページができましたね」と言って喜んでくれました。Tさんから最後にプロバイダーのさくらインターネット（マルチボランティアで使用）を紹介していただきました。

それから会報編集委員の皆さん、テスト公開中のホームページを開くことができた会員の方の意見を入れて修正し、最後に会長の判断を仰ぎ公開しました。

海老名ガイド協会と、ほどがやガイドボランティアの会がホームページを立ち上げる時はさくらインターネットを紹介しました。海老名ガイド協会がホームページを立ち上げる時、私に教えて欲しいと申し入れがありましたがか不足なので、担当者の方に一通りのアドバイスをして、マルチボランティアさんを紹介しました。



《 お城シリーズ 》

厚木市内に本当にお城があったのでしょうか？11 月開催予定の企画ガイド『七沢城と七沢の歴史を尋ねて散策』の事前学習用として当会お城博士の田頭会員から山城について、先月号に引き続き投稿していただきました。しっかり学んでガイド係に立候補してください。来月号でも続編を掲載する予定です。
(編集担当)

厚木にある山城「七沢城址」 (2) 田頭 文昭

◎七沢城関連の戦い

古河公方(足利成氏)に対し共同行動を取ってきた関東管領の山内上杉顕定と扇谷(おおぎがやつ)上杉定正の「両上杉」は文明十八年(1486 年)7月、定正が重臣太田道灌を殺害(顕定の讒言)した事で、確執が深まりついに長享元年(1487 年)11 月、武力抗争に及ぶ事となりました。俗にいう「長享の乱(ちょうきょうのらん)」がはじまります。長享二年(1488 年)1月、定正が反目した足利成氏及び長尾景春と結んだ為に均衡が破れ、対立が決定的となりました。



実時が原(さねまきがはら)の戦い

上杉顕定は勢力拡大の好機と捉え 2 月 5 日に機先を制して定正の本拠地の相模国糟屋を襲うべく 1 千余の軍勢を率い、相模国の実時が原迄出陣。迎え撃つ定正も軍勢 2 百余を率いて河越城から出陣、そこで遭遇戦となりました。

七沢城の南方(実時が原)で遭遇、実時が原の戦いとなりました。七沢衆 200 騎とされる七沢城主・七沢朝昌(上杉朝昌)が討死するなど兵力に劣

る上杉定正でしたが、上杉顕定勢を破っています。定正が寡兵で勝利したのは地形を知っていたからとされてます。

以後、扇谷上杉氏数代が七沢城に拠ったと伝わるものの、上杉氏の手から離れた時期など、判然としない点も多いようです。『日本城郭大系』では、16 世紀初頭には三浦氏の勢力下にあり、三浦義同(よしあつ)が伊勢宗瑞(北条早雲)に敗れて、相模中部の勢力を失う永正九年(1512 年)頃に廃城ないし放棄されたと推論しています。

長享の乱の戦いにより上杉氏は衰退し、伊勢宗瑞(北条早雲)を開祖とする、小田原の後北条氏の関東地方進出の端緒となりました。その後、扇谷上杉朝興の子朝定は山内上杉家と和解、後北条氏との戦いに臨み、天文十五年(1546 年)河越夜戦で戦死(異説あり)扇谷家は滅亡しました。山内上杉憲政は生き残り越後に逃れますが、永禄四年(1561 年)、関東管領職と上杉の名跡を、長尾景虎(上杉謙信)に譲り、鎌倉以来の名家上杉氏の嫡流は断絶してしまいました。

《参考》

- ・ 関東管領は室町時代に室町幕府が設置した鎌倉府の長官の鎌倉公方を補佐するために設置された役職名。任免権等は将軍にあり、当初は関東執事と言い上杉氏が世襲しました。
- ・ 上杉氏は、鎌倉時代中頃迄は下級貴族地下家の家柄で、上杉系図によれば、建長四年(1252年)藤原重房が、宗尊親王の鎌倉幕府将軍(皇族初の将軍)就任に従い、京都から鎌倉へ下向して武家化し、丹波国何鹿郡(いかるがぐん)上杉荘の領地名から上杉氏と称しました。なお重房の孫・上杉清子は、足利尊氏の生母で、尊氏が室町幕府初代将軍になると、生母の実家とし上杉氏は重んじられました。

◎戦国時代の山城の防御について

戦国時代に一般的だった武器は、初期の頃は基本的に弓矢、接近戦での槍や刀でした。その頃は出来る限り敵を寄せ付けず、攻め寄せた敵に対し効果的に反撃できる山城が殆んどでした。

七沢城の遺構でも見られますが、城の防御の工夫が各所に見られます、自然の地形や人間の智慧を絞り種々の対応をしています。特に、城を攻めるのは守備兵の約10倍の人数が必要と言われており「守りに易く攻め難い」のが山城でした。



山城の主な防御体制 (個々の城用語は先月号で説明しました)

- ・ 敵が本郭へ出来るだけ侵入せず、途中で敵を絶滅する為の工夫。→堀切、畝状縦堀、切岸、障子堀等
- ・ 敵と戦う場合、上からの攻撃が圧倒的に有利。→上から石や木材を落とす(熱湯や糞尿も)又、槍・弓での攻撃も守城側が有利

山城跡を訪ねても何も残されてないと言われる事が多いですが、そこには曲輪や土塁・堀切などの防御施設の跡が、今でも残されています。山中でそうした遺構を探しながら訪ね歩き、戦国時代を体感する、これほど心踊ることはありません。

城跡に立ち、何が見えるかを実際に確かめて見れば、領地である村落や領域、街道、河川、そして敵の山城などが望めます。その見えるものが、そこに山城が構えられていた紛れもない史実を物語ってくれるでしょう。

最近の活動

| 日付 | 場所 | 内容 | 参加者 |
|--------|----------|---------------------------|--------|
| 8月 13日 | アミューあつぎ | 定例会 | 会員 18名 |
| 8月 14日 | 市内5拠点 | 夏季観光客入込み調査 | 会員 10名 |
| 9月 3日 | あつぎ郷土博物館 | ガイド養成講座「特別講演」 渡辺華山とあつぎ | 会員 17名 |
| 9月 5日 | 南公民館 | 編集会議 | 会員 4名 |

編集後記

「セミファイナル」。道端にひっくり返ったセミがいるので、死んでいるのかと近づいてみると、突然最後の力を振り絞って飛び出してゆく。この最期の状態をセミファイナルというらしい。セミは土の中で幼虫として7年間くらい過ごし、地上で成虫として過ごす期間は7日間くらい。オスはいっぱい鳴いて相手を見つけ、子孫を残してセミは一生を終える。

暑かった夏もやっと終わり、9月、10月、11月とハイキングガイド、歴史探訪ガイドの予定が続きます。事前準備も含め、お客様に楽しんでいただけるガイドにしましょう。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘 前澤 宣子



オシロイバナ



ヘクソカズラ